JISS 国立スポーツ科学センター
Quarterly News Letter 季刊ニュースレター Vol.4

JISS

Winter 2004

[特集] JOC竹田会長インタビュー

アテネから北京へ JOCとJISSの連携




JOC 竹田恒和会長

[特集] 日本オリンピック委員会・竹田恒和会長に聞く

アテネから北京へ JOCとJISSの連携

アテネオリンピックでの日本選手団の活躍とJISSが果たした役割

２０００年の国のスポーツ振興基本計画を受け、ＪＯＣはゴールドプランを策定しました。ここでアトランタオリンピックでのメダル獲得率1.7%の倍である3.5%という目標を立てたわけですが、アテネオリンピックでは3.9%のメダル獲得率を達成し、目標をクリアすることができました。

この成果はＪＩＳＳの協力抜きに考えることはできません。２００１年の開所以来、ＪＩＳＳは日本の国際競技力向上に非常に大きな役割を果たしてきたと思います。最新技術を駆使したスポーツ医・科学・情報面でのサポートは選手強化にとって大きな役割を果たしたと考えています。

特に医学面でのサポートは選手に安心感を与えました。このことにより選手はトレーニングにより打ち込めたのではないでしょうか。アテネで多くのメダルを獲得したレスリング、体操競技、競泳、シンクロナイズドスイミングはＪＩＳＳを中心に選手強化を展開していました。こういった競技が長期的かつ集中的なトレーニングをＪＩＳＳのスポーツ医・科学・情報の支援を受けながらできたことは今回の結果と大いに関係すると思います。

アテネの勢いをトリノ、北京に繋げていく～一貫指導システム～

アテネでメダル獲得率3.5%という目的を達成したわけですが、スポーツ環境や基盤の整備は十分ではありませんし、さらに上を目指して躍進して行かなくてはならないと考えています。特に、スポーツ振興基本計画の中で最も必要不可欠なものは一貫指導システムの構築です。各競技団体は２００５年をめどに育成プログラムを完成する予定です。これを推進することで恒常的な強化策を進めていくことが可能となります。ＪＯＣは競技団体と連携し、このシステムをより強固なものにすべく邁進していきたいと考えています。

ナショナルトレーニングセンターの早期完成

アテネの好成績を受けた小泉首相の発言もあり、ナショナルトレーニングセンター（以下、ナショナルトレセン）の完成が早期に実現する運びになりました。屋外トレーニング場は２００６年には完成すると聞いています。これは屋外の競技だけでなく室内の競技においても基礎的なトレーニングを実施する上で非常に有効になってきます。室内トレーニング場も２００７年秋から暮れまでの間には完成予定で、北京に向けた最後の仕上げに間に合うことになりました。次のゴールドプランにはこの施設の利用を含めて計画を組み込んでいく必要があります。新しい目標についても今後検討して行きたいと考えています。アテネで達成したＮＯＣ別メダル獲得数トップ5以内を今後も維持していきたい、と考えています。このための施策を掘り下げていく必要があります。アメリカ、中国、ロシアのトップ3の一角を切り崩すことは難しいかもしれません。しかし、5位以内に位置することは本来の実力等から判断しても実現していける範囲だと考えております。

将来を見据えたエリートスクールとコーチアカデミーの創設

北京以降を見据え、ナショナルトレセンにエリートスクールを立ち上げる予定です。すでにＪＯＣはＪＩＳＳと連携して福岡県とのタレント発掘のモデルケースを開始しています。有望な素質を持った子どもが様々なスポーツにふれながら可能性を探り、最終的に取り組む競技を決定していく。こういった取り組みがエリートスクールに繋がっていきますし、一貫指導システムに繋がっていくと考えています。こういった子どもたちが北京以降のオリンピックに活躍することが見込まれます。福岡のモデルケースが成功を収め、全国的にタレント発掘の動きが広がることが理想ですし、そうなって欲しいと願っています。少子化の中、子どもたちのスポーツ振興・育成・強化が行われることで地域の活性化が図られ、優秀な選手が輩出されることは我々も大いに期待するところです。同時に、ナショナルトレセンの中にはトップアスリートを育成する指導者を養成するコーチアカデミーの創設も視野に入れています。これらが今後の国際競技力向上に結びついていくと期待しています。



地域も巻き込んだネットワーク型トレセンの構築

ナショナルトレセンは主に室内型競技をメインにしています。オリンピック競技には多くの屋外競技もありますが、費用の面で、なかなか新しい施設を作るというわけにはいきません。こういった競技は既存の施設を競技別強化拠点として指定し、ＪＩＳＳやナショナルトレセンとネットワークを構築しながら強化事業を展開していきたいと考えております。各地域のトレーニングセンター、スポーツ科学センターと連携し大きなネットワークを構築していくことで力も大きくなり、可能性も広がると思います。その中心的役割を担うのが、ＪＩＳＳであると期待しています。

ＪＩＳＳとナショナルトレセンを中心とした競技力向上の中枢

ＪＩＳＳの隣接地にナショナルトレセンが出来ることから、これまで以上に多くの競技団体がＪＩＳＳのサポートを受けて国際競技力の向上をめざすことになるので、ＪＩＳＳの果たす役割はこれまで以上に大きくなると思います。我々、ＪＯＣの期待もそれに伴って大きくなりますし、ＪＩＳＳとの連携も、より密接になっていく必要があると思います。また、ＪＩＳＳを拠点にした各競技団体の連携と情報の共有化にも期待したいと考えています。ＪＩＳＳが情報のシンクタンクになり、各競技団体が連携しながら情報を有効活用することが望ましい姿です。ＪＯＣと各競技団体が、それぞれ一対一の繋がりでしかなかったこれまでの関係が、ＪＩＳＳが出来たことで競技団体間の連携が一層深まり、今まで見えなかったものが見えてくるようになりました。ナショナルトレセンが出来ることで更に活発に展開されていくことを期待しています。

次期ゴールドプランとＪＩＳＳへの期待

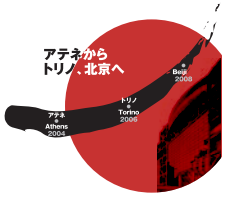
今後のゴールドプランについては先程もお話ししたとおり、一つの目的をクリアし出来ましたので、新たなターゲットを設けて国際競技力向上を進めていきたいと考えております。アテネの成功でここまでのプロセスが間違っていないことが確認出来ました。これまでの流れを繋げながら更に大きく広げていくことが重要であると考えています。

いずれにせよ、トリノ、北京、それ以降に向けてまだまだ努力し続けることが必要だと思います。この努力の積み重ねが大きな成功につながっていくと思います。私どもＪＯＣにとって、ＪＩＳＳの皆さんへの期待は非常に大きくなっています。

これからも国際競技力向上の中核となり、選手の強化・育成にご協力いただきたいと考えています。



JISS2004



2004年12月10-11日
国立スポーツ科学センター





第2回JISS国際スポーツ科学会議2004開催

平成16年12月、JISS研究体育館を会場に『第2回JISS国際スポーツ科学会議2004』を開催しました。会議は2日間にわたって行われ、両日とも200名を越す参加者を得て、盛会のうちに終了しました。

会議のプログラムとして、初日は、筑波大学の村木征人教授から「コーチングと科学的サポート」と題した基調講演をいただき、引き続き、JISSのサポートの紹介、ポスター発表が行われました。2日目は、基調講演として、ドイツ・ライプチヒ応用トレーニング科学研究所のヘルムート・ザンドナー博士から「エリート・スポーツ・システム成功のための中心要素」を、ロシア・シンクロナイズドスイミング連盟のイゴール・カルタショフ博士から「ロシアにおけるシンクロナイズドスイミングへの支援」を御講演いただきました。また、午後からは、特別シンポジウムとして「北島選手を中心とした競泳サポート」を紹介し、最後に「トリノ、北京への科学的サポートに期待するもの」と題したパネルセッションを行いました。



JISSは、研究とNFへの支援で得られた成果を選手・コーチ等競技現場に提供するとともに、広く一般への普及も業務として位置付けています。会議終了後に実施したアンケート結果を分析し、よりよい会議として発展していくよう努力していきたいと思います。







会議の映像・資料をインターネットでご覧いただけます。　http://www.jiss.naash.go.jp/jiss-conf-2004/

2005年シーズン toto 発売中!

独立行政法人 日本スポーツ振興センター スポーツ振興事業部
http://www.naash.go.jp/toto/

毎回10,000名様に!10回連続!
1,000円分プレゼント!!



totoで発表した5試合が当たれば

総計100,000名様に当たる!

totoラッキー5キャンペーン実施中!
総額1億円
対象開催回:toto第152回～第161回
2005年2月26日（土）～5月3日（火・祝）

今年は toto が面白い!

totoの収益による助成が、日本のすべてのスポーツをアシストしています。

Quarterly News Letter JISS Winter 2004

JISS 国立スポーツ科学センター

季刊ニュースレターJISS Winter 2004　平成17年2月28日発行（年4回発行）
発行　独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター
編集・発行者　浅見 俊雄
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1　http://www.jiss.naash.go.jp/